

★★

勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「SRI、ESG とタタ・グループ」

★★

環境、社会、ガバナンスの観点から企業を分析して投資を行う ESG 投資が、5 年ほど前から注目を集めています。これは 1920 年代に起源を持つとされる SRI (Socially Responsible Investment)、いわゆる社会的責任投資の一部です。

私は、リッチー・ローリー著の「グッド・マネー～資本主義は倫理的でありうるか～」という本との出会いから、この SRI に興味を持ち、いつかそれを切り口とした日本株投信をこの世に出せたらと考えていました。

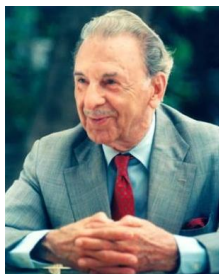
そして、その目論見は案外早く実現しました。1999 年 5 月に日本で初めての社会的スクリーンを持った SRI 関連の日本株投信として、「アクティブ・レディースファンド」を外資系投信会社で立ち上げました。

この投信のコンセプトは、女性の社会進出を応援する、または拡大が予想される女性の消費から恩恵を受ける企業に投資するというもので、その話題性と環境関連のエコファンドより設定が早かったことから、かなりメディアにアピールしました。

その設定当日、テレビ東京から取材が入り、その夜には小谷真生子さんがキャスターのワールドビジネスサテライトで紹介され、おまけにあのエコノミストの植草一秀氏に好意的なコメントまで頂きました。更に海外でも、アメリカの金融専門誌であるバロンズにも記事が載るといって斬新でインパクトのある商品でした。

その後は続々と SRI 関連の日本株投信が設定されたため、私はそのテーマを追いかけることを止め、視点をアジアに移し上海を中心に中国出張を繰り返しました。そしてその間は、企業を社会性や倫理性から観るということを全く忘れていました。暫くして、それを思い出させてくれたのはインド株投信の設立準備のために、インドのムンバイを拠点とするタタ・グループを訪れた時です。2006 年の事です。一面のスラム街と物乞いに驚かされたこの新興国にも、倫理性を重んじ、以下の様な社会貢献を経営哲学に掲げ長年実践している企業グループがあるのだということを知ったのです。

“What comes from people should go back to them many times over”
(社会から受けた恩恵は更に大きくして、繰り返し還元しなければならない)



J R D Tata (J.R.D. タタ、タタ・グループ元会長)

私は初めてのインドで、同国の経済の成長性よりも、1868年に発足しインドの経済発展の礎を築いた大財閥の倫理性により大きな感銘を受けました。今から20年程前は、アメリカ企業でさえ、2001年から2002年にかけてのエンロンやワールドコムを経営破綻を受けて、企業のガバナンスシステムの制度上の問題が大きく批判されていた時期です。

日本では、最近になって道徳と経済の一致が、ESGと渋沢栄一人気に乗って広く取り上げられていますが、以上の経緯から私にとっては何を今更という感じはあります。

ESGはSRIに比べて、長期的な投資価値の向上に着眼し、その対象企業の範囲も格段に広いことから、これから投資企業の選別には避けてと通れない尺度だと思います。ただそれだけに限らず、より大きな視野に立った国家運営と企業経営の基盤として、政府と企業のESGへの取り組みも投資国の選別には重要と考えています。